

平成18年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫一般

(カメムシ類No.2、ハスモンヨトウNo.2、フタスジヒメハムシNo2)

平成18年8月25日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月第5半旬に行った県内巡回調査の結果は表1のとおりであった。

カメムシ類は、平年よりやや多い発生であり、品質向上のため防除の徹底を行う。

なお、気象予報によると向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、全般的にダイズ害虫の発生に好適な条件と見込まれるので、今後の発生に注意する。

ハスモンヨトウは、平年より少ない発生となっている。

2 カメムシ類

(1) 発生状況

ア 8月24日現在、本県ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ等の発生がみられ、発生ほ場率は61.1%（平年34.1%）、25株当たり平均成幼虫数は1.8頭（平年0.7頭）と平年よりやや多い発生となっている（表1、表2）。特に、東部地区、西部地区での発生が多い。

イ 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は平年並となっている。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 防除は若莢期にあたる開花期の25～30日後と、その10日後の2回の防除を徹底する。

イ ハスモンヨトウの発生が多いほ場では、防除指針を参考に薬剤の選択も考慮する。

ウ 近年、9月以降増加する傾向があるので、今後の発生状況に注意し、発生が多い場合は追加防除を行う。

3 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

8月24日現在、発生ほ場率は61.1%（平年77.0%）、1a当たりの平均白変葉か所数は0.2か所（平年1.4か所）と平年に比較して少ない発生となっている（表1、表2）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努め、発生初期の場合、葉の切除などによる捕殺を行うか、防除指針等を参考に防除を行う。

イ 防除の目安は、1a当たりの白変葉か所数5か所以上とする。なお、新葉の出葉により、白変葉が確認されにくいほ場が多いので、観察に当たっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内での観察も行う。

ウ 若齢幼虫に対する防除薬剤の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が劣るため防除適期を失ないようにする。

なお、中～老齢幼虫が混在する場合は、ロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、マトリックジョーカー粉剤DL等を散布すると比較的效果が高い。

4 フタスジヒメハムシ

(1) 発生状況

8月24日現在、発生ほ場率は83.3%、25株当たり平均虫数は56.9頭で、平年並の発生であるが、地域間差あるいはほ場間差が大きく、一部多発ほ場が見受けられる(表1)。

(2) 防除上注意すべき事項

発生が多い場合、カルホス粉剤等で防除を行う。

表1 ダイズ害虫発生状況(平成18年8月下旬) (単位:頭、箇所)

市町村	地点	ほ場数	カメムシ類	ハスモン	フタスジ
			25株当虫数	1a当白変箇所数	25株当虫数
岩美町	大谷	3	6.0	0.43	37.7
鳥取市	上段	3	3.7	0.00	54.3
国府町	玉鉾	3	0.7	0.47	1.3
気高町	下坂本	3	0.7	0.13	314.0
河原町	佐貫	3	1.0	0.00	29.3
倉吉市	中江	3	0.7	0.50	110.0
湯梨浜町	長和田	3	0.0	0.37	0.7
大栄町	原	3	0.7	0.67	0.3
米子市	春日	3	0.7	0.10	75.7
南部町	福成	3	5.7	0.13	39.7
大山町	坊領	3	2.0	0.00	18.0
江府町	宮市	3	0.3	0.00	1.3
H18年平均			1.8	0.23	56.9

注) 数値は各地の平均値。

表中のハスモンはハスモンヨトウ、フタスジはフタスジヒメハムシを示す。

表2 ダイズ害虫発生状況の平年比較(8月下旬) (単位:%、頭、箇所)

年	カメムシ類		ハスモンヨトウ	
	発生ほ場率	25株当頭数	発生ほ場率	1a当白変葉箇所数
H18年	61.1%	1.8	61.1%	0.2
平年	34.1%	0.7	77.0%	1.4